

(長沢遺跡)発掘までの経過と周辺遺跡

長沢遺跡が発掘されるようになった経過を記してみたい。

遺跡の位置は、多摩川の形成した段丘(第二段丘面)が段丘斜面に移りかわる地点近くにあつて、海拔132m前後にある。戦前まではほとんどが桑畑で民家はなかつたが、戦後しだいに民家が建築された。

遺跡は神明社の附近から南に200mほどの長さで、幅は東に50m位の範囲内にある。この附近は以前から石鍬や土器の破片および石器が発見されていたという事を、農作業に従事した老人や学童から聞く事があつた。また遺跡近くの墓地から遺物が掘り出された事もあるが、残念な事に、一度も発掘調査された事がなかつたので、正確な事は不明であつた。

昭和45年7月1日、福生町が市制を施行するにあつて、福生地区消防署を建設する事になつたがちょうどその位置が遺跡にあたつてゐると思つたので、福生市教育委員会が担当し、発掘調査がおこなわれることになつたのである。

福生市内には遺跡はきわめて少なく、長沢地内の二カ所で多少遺物の表面採取ができるくらいであるが、周囲の市町村には比較的多いのである。つぎに福生市近辺のおもな遺跡をつぎに記してみたい。秋多町の草花前縄文遺跡(草花遺跡、古墳)は勝坂式初期のもので、円形の周溝のある珍しい古墳も二基ある。

草花前遺跡の南方150mほどの平井川に近い所に縄文晩期の遺跡(中高瀬)がある。永田橋を渡り坂を登りつめた両側の畑地には、諸磯C式の遺跡(台上遺跡)があり、別名草花期ともいわれている。草花前の遺跡から300mほど西には、加曾利E式の遺跡(氷川遺跡)と古墳と(慈勝山古墳)がある。古墳からは舍利壺が出土した。豊坂を上りつめて右に入ると寺がある。その東に小山があつたが、昨年削り取られて今はないが南麓に壕を廻らしたこの附近では最も古いと考えられる古墳があつたが、実測図のみで今はない。慈勝寺墓地の北側は諸磯式b式の遺跡(慈勝寺遺跡)で、時々遺物が発見される。

同じく秋多町の二宮神社境内およびその附近は、豊富な古代遺跡(二宮遺跡)である。撚糸文土器から関山式、黒浜式、諸磯式、加曾利E式などの縄文時代から土師、須恵などの古墳時代にいたるまでの多量な資料が出土した。また神社の下方には敷石住居址が三カ所発掘されており、普門寺附近は縄文後期より晩期の遺跡がある。

羽村町には昭和46年8月に発掘した坂の上遺跡があり、付近一帯の広い範囲が縄文中期の遺跡である。

瑞穂町の狭山池附近には、ブレ縄文遺跡と縄文中期の遺跡(狭山遺跡)があり、昭和43年から44年にかけて発掘調査が実施された。ここは古来より知られている縄文時代草創期の遺跡だが、遺跡の上に建築物が多数できてしまつたので全滅に近い。さらに瑞穂農芸高校裏側にあたる狭山丘陵にも遺跡(六道山遺跡)がある。

昭島市では拝島駅近くの林ノ上地内には、昭和22年に後藤守一教授が発掘した遺跡(林ノ上遺跡)があり、ここからも縄文早期の撚糸文土器と押形文土器を出土している。